



# ふくろう通心



木村さん

## ケア帽子が導いた木村さんとの出会い！

ケア帽子の普及を進める『わた帽子の会』赤石敏子

※ケア帽子とは…抗がん剤治療で脱毛したときにかぶる帽子のこと  
毛がパラパラ落ちるのを防いだり自宅でウィッグをつけないときにかぶる。



3年程前のことです。当時、弘前市民参画センターに勤務されていた藤田恵さんから「とっても手仕事の出来る人がいるんだけど帽子作りに参加してもいいですか？」と電話があり直ちにOKしました。

その人は木村好子さん（83歳）。第一印象は「カバン、メガネケース、小銭入れ、全て手作りで・・・なんてすごい人なんでしょう。小柄で優しい声の持ち主、カラオケが上手そう～！」そんな木村さんとペアを組んで3年、一緒にたくさんのケア帽子を作りました。1,000個以上は患者さんのもつに届いたことでしょう。震災地である岩手県野田村の仮設集会所へも一緒に行き、たくさんのバンダナ帽子をプレゼントしたら、とっても喜んで頂いたのを昨日のこのように思い出します。

今年は藤崎町役場主催の講習会や老人会、尾上総合高校（男子22名：女子7名）で帽子作りを指導しました。特に印象に残ったのは尾上総合高校で、孫に教えるように針の持ち方から始め、時間になっても出来上がらず、2時間延長してやっと全員が完成しました。生徒たちのガン患者さんを思いやる気持ちがとっても嬉しく、又、針を持つ姿も一生懸命でそれはそれは楽しい一日でした。『ワゲもの達よ、ありがとう』と只々感動でした。

現在は、毎月第2金曜日に弘前市民参画センターで13：30～15：00まで講習会、翌日の土曜日には五所川原市のつがる総合病院で13：30～15：00まで帽子作りをしています。

つがる総合病院では、がん患者さんも参加され、なかには辛い胸の内を話される方もいます。きっと聞いて欲しいんですね。心優しい木村さんは一生懸命聞いてあげて、時には涙していることもあります。

帽子の完成品が100個あるとすれば、98個は木村さんが作っています。帽子を手にした患者さんの笑顔が、木村さんの生きる糧となっています。生きがいは、自分で見だし一日一日を楽しく過ごすことだと木村さんに教わったような気がします。木村さん、これからも健康第一に帽子作りを楽しみましょうね。ベストパートナーとしてどうぞよろしくお願い致します。

感謝感謝でいっぱいです！

又、タオル・生地を提供を下された方々にも感謝申し上げます。



木村さんと赤石さん



ひとりでも多くの笑顔が見たいから・・・

「ケア帽子の普及を進めるわた帽子の会」の赤石さんは、ご自身が10年前にがんを患ったのがきっかけで、抗がん剤治療の副作用で髪の毛が抜けてしまった人たちが必要としているケア帽子を初めて目にしたそうです。1年間に必要としている数に足りないと知り、ご自身で作ることを決意。それ以来現在まで作り続けていましたが、3年前に木村さんという素敵なパートナーに出会いました。木村さんの丁寧に仕上げた帽子を被った患者さんは笑顔になり、その笑顔を見た木村さんもまた笑顔になり、家に閉じこもる事の多かった以前に比べ明るくなられたそうです。これからもお二人の名コンビぶりが楽しみです。

※ お二人が作られた帽子は近隣の病院に寄付され、必要な患者さんに届けられています。



## ボランティア 体験記



東北女子大学 三年 児童学科 藤田 遥

今回、私は『げんキッズサッカーフェスティバル』にボランティアとして参加した。これを通して得たものがたくさんある。まずは大会の運営の仕組みを知れたことである。私は学生時代、大会に出場していた側であったため、運営のことには無関心であったが、今回実際に手伝いをしたことで大会一つ成功させるためにたくさんの人と労力が必要であったのだと学んだ。大会がスムーズに進むための工夫や監督者会議の内容など目の当たりにして、今まで当たり前に出場してきた大会の運営に感謝の念を覚えた。また、力仕事もたくさんあり、苦戦したこともあったが、おかげで体力・忍耐力を養われた気がする。この他に子ども達の様子も知れた。私は将来小学校教諭を志望しているが、まだ小学生とかかわる活動をしておらず焦っていた。そのため、このような機会があつて本当に良かった。小学生の精神力・体力・性格などサッカーを通して学ぶことができたし、スポーツに性格が表れることにも気づき、楽しんでボランティアをすることができた。これからもたくさんボランティアに参加し、活動の仕組みや大変さを直接身体<sup>からだ</sup>で学んでいきたい。そして学んだことを活かして将来描くものに近づいていきたい。



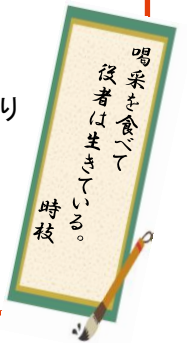
## — 元気をありがとう —

ボランティアスタッフ：奈良岡

弘前市教育委員会生涯学習課より今年も『児童劇観劇教室』のボランティア依頼が届きました。私は、このボランティアが大好きで、毎年『文化ボランティア』の一員として参加しております。各学校のバスが到着する前から入口でスタンバイ、心にスイッチを入れます。「こんにちは」「こんにちは」と元気の良い挨拶と共に次々と入場して来ます。私たちも大きな声で「こんにちは」と出迎え、ベルが鳴ったらドアを閉めます。場内の騒がしさが、明かりが消えると一瞬悲鳴のような喚声に変わるので（毎年、何故？子どもの心を失ったおばあさんの疑問）。楽しい踊りの場面では手拍子が起きて、素直な反応に嬉しくなり一緒に盛り上がっています。観劇を通して、上演内容のメッセージが伝わってくれたらと願います。帰りには又「さよなら」の連発で、手を振って見送ります。バスが発車しても手を振ってくれて「めんどくて、めんどくて」

去年は役者さんも見送りに出て来てくれて生徒一人一人とハイタッチ。主演の孫悟空はやっぱヒーローです。この光景に逢いたくて、子どもたちからパワーを貰う為のボランティアです。

※文化ボランティア 博物館・美術館・図書館などの施設ボランティアや音楽・演劇・美術など「アート系」のイベントなどに関わるボランティア。  
『文化』をキーワードにしたボランティア。



## — 豆 知 識 —



カレーとウェルシュ菌

空気に触れることを嫌い、温度が下がるころに増殖するウェルシュ菌は、残ったカレー鍋などを常温放置することで莫大に増えてしまい食中毒の原因になります。100℃で加熱しても死滅せず、43℃～47℃で最も活発化するウェルシュ菌は増殖しても味やにおい見た目には変化がありません。たくさん作って残ったカレーは粗熱を取ったらすぐ冷蔵庫へ入れて、再加熱する時はかき混ぜながら空気を入れるようにすることが大切です。

実際、冷蔵庫に入れ再加熱して食べたら美味しく感じましたよ。



## — 編 集 後 記 —

スタッフ会議で「夢中になっていることがありますか？」という話題に・・・

私自身「スポーツクラブで毎日汗を流す」といった程度。他のスタッフの方は「ウォーキング」「ソフトバレー」「カラオケ」「お琴」「大正琴」など様々です。会議の時に私の知らない世界の色々な話を聞けるのも楽しみのひとつです。



＜製作＞市民ボランティアスタッフ＜製作協力＞弘前市ボランティア支援センター  
〒036-8355 弘前市大字元寺町 1-13 弘前市民参画センター内  
TEL: 38-5595 FAX: 36-1822  
H P: [www.city.hirosaki.aomori.jp/volunteershien/](http://www.city.hirosaki.aomori.jp/volunteershien/)

※ URL が変更になりました。  
情報紙についての意見・感想をお待ちしております。